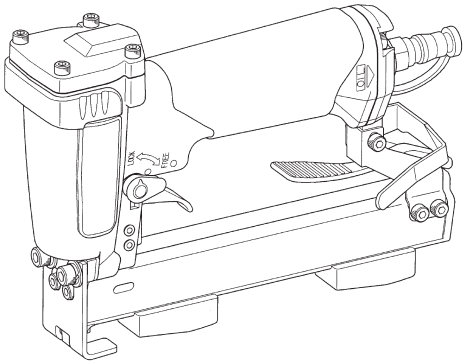
ヒューマンハードウェアのマキタ
人の暮らしとすまいのために……

取扱説明書　軽天タッカ

モデル AT422CA



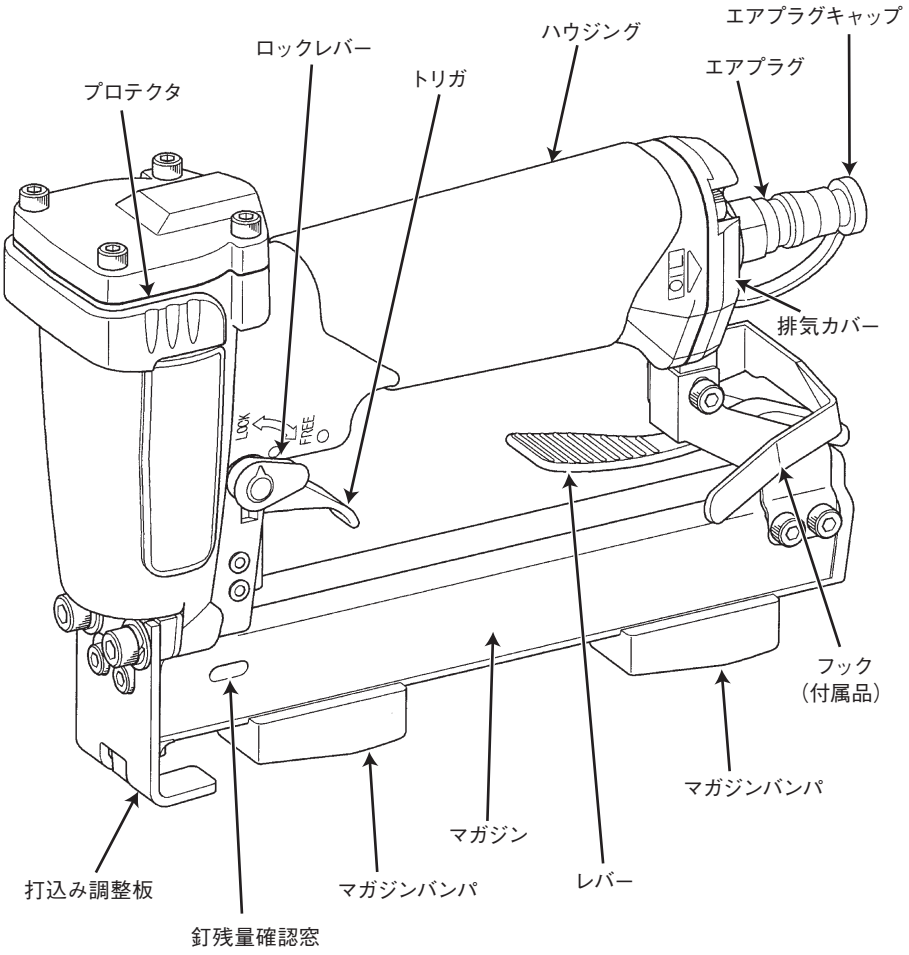
このたびは**軽天タッカ**をお買い上げ賜わり厚くお礼申し上げます。
ご使用に先立ち、この取扱説明書をよくお読みいただき本機の性能を十分ご理解の上で、適切な取り扱いと保守をしていただいて、いつまでも安全に能率よくお使いくださるようお願い致します。
なお、この取扱説明書はお手元に大切に保管してください。

⚠警告

- 使用前に必ず取扱説明書を読む。
- 必ず保護メガネを着用して使用する。
- 安全装置が完全に作動するか使用前に必ず点検し、正常に作動しない場合は絶対に使用しない。
- 射出口を絶対に人体に向けない。
- 移動する際は、必ずトリガをロックして、エアホースを外す。
- 使用時以外は、絶対にトリガに触れない。
- エアコンプレッサ以外の動力源を絶対に使用しない。
- 揮発性可燃物の近くで、絶対に使用しない。

INDEX	ページ
1 各部の名称 ……	1
2 製品仕様 ……	2
3 使用ステープル一覧 ……	2
4 使用用途 ……	3
5 標準付属品 ……	3
6 トリガロック ……	4
7 使用前の準備 ……	5
8 安全上の注意点 ……	6
9 使用方法	
ステープルの装填方法 ……	13
打込み方法 ……	14
10 使用後のメンテナンス ……	15
11 フックの取付け方法 ……	17
12 打込み深さ調整方法 ……	18
13 マガジンバンパの移動方法 ……	19

1 各部の名称


エアプラグキャップ
ハウジング
ロックレバー
エアプラグ
トリガ
プロテクタ
排気カバー
LOCK
FREE
フック
（付属品）
マガジンバンパ
マガジン
レバー
打込み調整板
マガジンバンパ
釘残量確認窓

2 製品仕様

寸　法（長さ）	207 mm
（ 幅 ）	46 mm
（高さ）	147 mm
質　　量	0.8 kg
使用ステープル	4×10～22 mm
装　填　本　数	100 本
使用空気圧(手元レギュレーターゲージ圧)	0.44～0.69MPa（4.5～7.0kgf/cm^2）
使 用 オ イ ル	タービン油（JIS2種　ISOVG32）
エアホース内径（長さ 30 m 以内）	6.5mm 以上

3 使用ステープル一覧

⚠ 警告	タッカの故障や事故をさけるため、必ず弊社純正のステープルをお使いください。

	メッキ		ステンレス	
色	無地	白	無地	白
長さ（mm）	部品番号	部品番号	部品番号	部品番号
10	F-80011	―	―	―
13	F-80024	―	F-80442	―
16	F-80037	F-80079	F-80114	―
19	F-80040	F-80082	F-80127	F-80156
22	F-80053	F-80095	F-80130	F-80169

4 使用用途

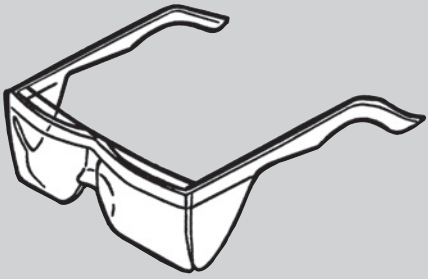
●石膏ボードと木材の接合。

●合板、ベニヤと木材の接合。

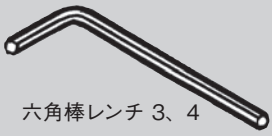
5 標準付属品

①油サシ…… 1本
②六角棒レンチー3…… 1本
－4…… 1本
③セーフティゴーグル（保護メガネ）… 1個
④フック…… 1個

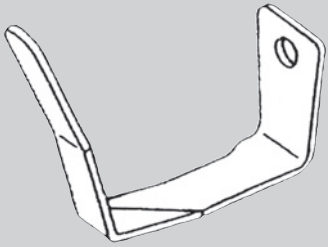
油サシ



セーフティゴーグル
（保護メガネ）



六角棒レンチ 3、4



フック

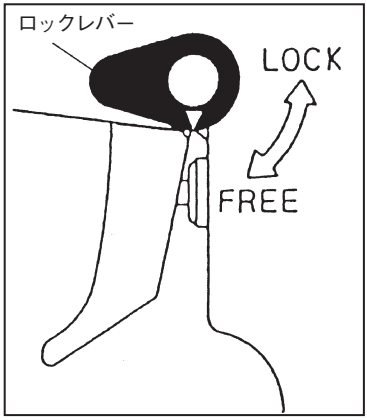
6 トリガロック

⚠ 警 告

本機は、コンタクトアームを装備しておりませんので取扱には十分注意してください。
・トリガロックを解除した状態でトリガを引くと発射しますので、トリガを引くときは射出口を常に部材に押し当ててください。
・射出口には絶対に手、足、顔等を近づけないでください。
・射出口を絶対に人体に向けないでください。
・移動する際は必ずトリガロックをし、エアホースを外してください。
・タッカを使用しない時は必ずトリガロックをし、エアホースを外してください。
・作業中断時は必ずトリガロックをし、エアホースを外してください。

本機には安全装置としてトリガロック機能がついています。トリガロック機能とは、作業を一時中断する場合等ロックすることによって誤発射を防ぎます。ステープルを打つ作業中以外は必ずトリガロックをしてください。
・トリガをロックする場合は、ロックレバーを軽く引き上げ“LOCK”の矢印方向に 90° 回して完全に止まる様にして下さい。ロックを解除する場合はロックレバーを軽く引き上げ“FREE”の矢印方向に 90° 完全に止まる迄、回して下さい。ロックレバーが不安定な位置にある場合には誤作動する恐れがあるので、上記操作は確実に行なって下さい。

ロック状態



フリー（解除）状態

7 使用前の準備

⚠ 警 告

エアホース

内径 6.5mm 以上のエアホースを 30m以内でお使いください。

給油

付属の油サシにて作業の前後にエアプラグより、タービン油を2～3滴（0.1cc）注入してください。給油を怠るとエアタッカの寿命が短くなるばかりか、故障や事故の原因になりますので、必ず行ってください。

空気圧

空気圧の高低はステープルの長さ、ステープルが打たれる対象物の木質によって異なります。
このエアタッカの使用圧力範囲は手元レギュレータゲージ圧で 0.44MPa～0.69MPa
（4.5kgf/cm^2～7.0kgf/cm^2）です。
対象物の木質により、この範囲内で調整してお使いください。

8 安全上の注意点

⚠ 警 告

❶作業関係者以外近づけない。
作業する場合には、作業者以外の人を近づけないでください。

❷作業環境に応じた防具を着用のこと。
作業環境に応じて、ヘルメット、安全靴等の防具を着用してください。

❸正しい服装で安定した姿勢で作業をする。
作業に適した服装で作業をしてください。又、無理な姿勢での作業は危険です。常に足場をかため、身体の安全を保って作業をしてください。

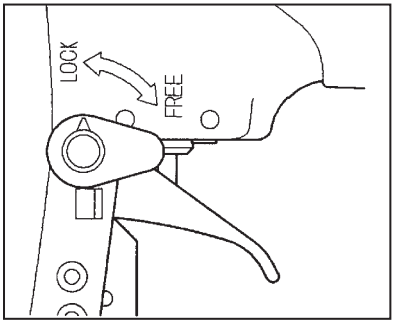
❹作業に入る前に必ず始業点検を行う。
各部のナット、ボルト等の締め金具が緩んでいないか、その他部品が外れたり、傷んだりしていないかを点検してください。いずれの部品も、それぞれ大切な役目を果たしております。外れたり、傷んでいると故障したり、思わぬ事故を起こしますので、十分注意して点検してください。

❺給油及び圧力点検をする。
指定の圧力より低いと、エアタッカの機能を果たしません。又指定の圧力を越えるとエアタッカの寿命を早めたり、危険が生じます。
給油は、作業の前後にエアタッカのエアプラグより、付属の油サシでタービン油（JIS2種 ISOVG32）を2～3滴（0.1cc）注入してください。

⚠ 警 告

❻本機はコンタクトアームを装備していないので取扱に注意する。

本機はトリガロックを解除した状態でトリガを引くと発射しますので、十分注意して使用してください。ステープル打作業以外には使用しないでください。

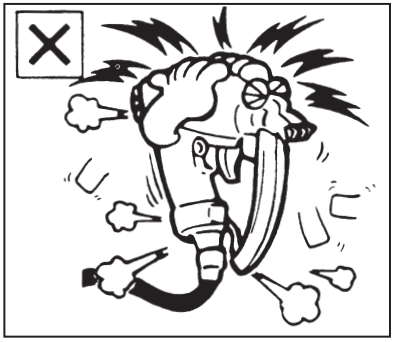


❼必ず当社指定のステープルを使用する。

当社以外のステープルを使用しますと、故障や事故の原因になりますから、必ず指定のステープルを御使用ください。尚、保管状態の悪いものは、使わないようにしてください。

❽エアもれや異常音が無いかを確認する。

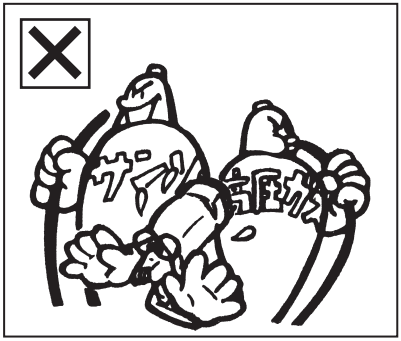
エアホースを接続したら、まず各部にエアもれが無いかを確認してください。次にステープルを打込んでください。ステープルが曲がったり、異常音を発生したりしないかを確認してください。エアもれのある機械や、その他異常のある機械は絶対に使わないでください。



⚠ 警 告

❾動力源は必ず圧縮空気を使用する。

圧縮空気を動力源として使用し、酸素ボンベや高圧ガスボンベは絶対に使用してはいけません。
使用するとエアタッカが爆発するおそれがあります。



❿作業現場は整理、整頓をして特に足元の整理に注意を払う。

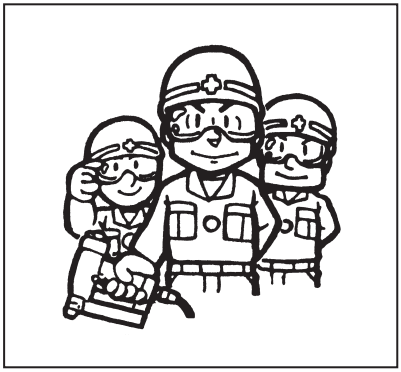
屋外作業で足場を使っての高所作業では、足場の安全性を確認してから作業を行ってください。又、作業をする場所の照明は充分に明るくしておいてください。

⓫作業中は常に保護メガネを着用する。

粉塵や、万一打ち損じたステープルがはね返り、目に入ると危険ですから、作業をする本人だけでなく、周囲で作業をしている人も、必ず保護メガネを着用してください。

⓬防音保護具を着用する。

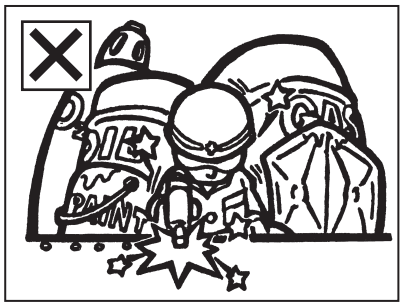
作業をする場合、排気音や排気エアから耳を守るため作業環境に応じて防音保護具（耳栓等）を着用してください。



⚠ 警 告

⓭危険物の近くでは作業をしない。

ステープル打込み時に火花が飛散することがありますので、ラッカー、ペイント、ベンジン、シンナー、ガソリン、ガス類、接着剤等、引火あるいは爆発の恐れがある物質の近くでは、絶対に作業をしてはいけません。

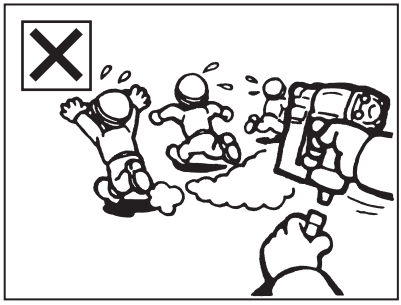


⓮射出口には、絶対に手を近づけないこと。又材料を手で支える時は充分注意する。

やむを得ず材料を手で支えなければならない時は、射出口付近から離し、かつ充分安全な場所を支えるようにすること。

⓯エアホース接続時は必ず下記を厳守する。

- ●トリガに触れない。
- ●トリガロックをする。
- ●射出口に触れない。
- ●射出口を人体に向けない。



⚠ 警 告

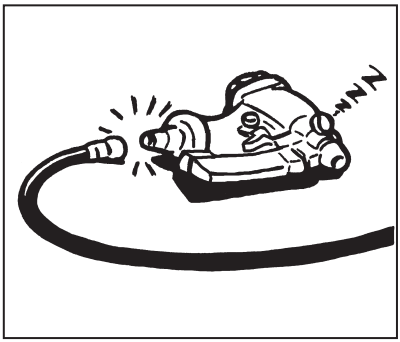
⑯移動する際は必ずトリガをロックしエアホースを外す。

エアホースを接続した状態でトリガを引いたまま本機を持ち歩いたり、手渡し等をすると、誤って発射することがあり、思いがけない事故につながりますので移動する際トリガをロックしエアホースを外してください。

⑰エアタッカを使用しない時は必ずエアホースをはずす。

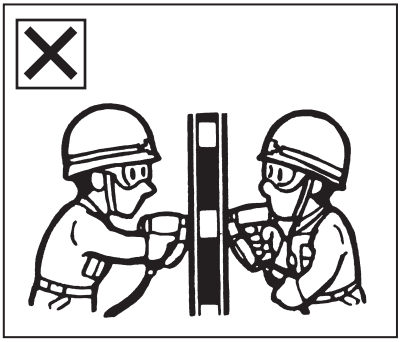
⑱作業中断時は必ずエアホースをはずす。

作業中のステープル装填、調整及びステープルつまりを除去するとき、誤ってステープルを発射すると危険ですので、エアホースを外してください。



⑲射出口を向け合っての作業はしない。

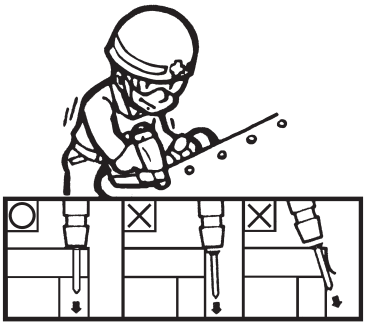
相手の姿が見える場合はもちろん、見えない場合でも両側から向かい合っての同時打ちは大変危険です。



⚠警 告

⑳縁を打つ場合の位置、方向に注意する。

A図のように対象物に対して、垂直に押し付けられた状態を確認し、打ち込んでください。



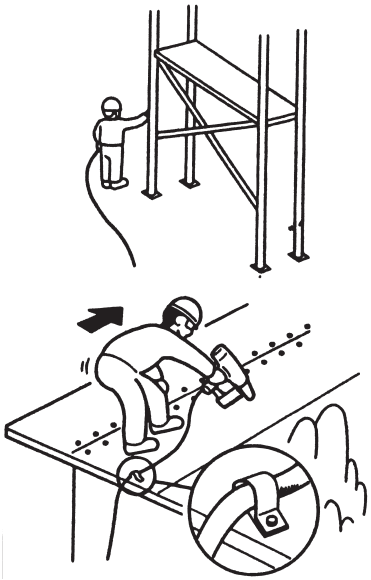
A図　　B図　　C図

㉑機体の反動に注意する。

作業中はエアタッカの上方に顔などを近づけないようにする。一度打ったステープル、堅い木や節などを打つと機体が強く反動しますので、注意してください。

㉒作業中、エアタッカに異常が発見されたら、ただちに使用を中止する。

エアもれ、異常音、打込み不良、その他通常の時と違った現象が確認されたら、ただちに使用を中止し、点検・修理を受けてください。



㉓高所で作業をする場合、次のことを注意する。

- ●足場を使って作業をする場合、足場の安全性を充分確認して、作業をしてください。
- ●エアホースは作業をする場所の近くに固定してください。これは、ホースが引掛かったり、引っ張られたりすると反動で身体の安定を欠くことになり危険です。
- ●屋根などの傾斜面でのステープル打作業は、下から上へ向かって前進しながら行ってください。後退しながら作業をすると、足を踏み外す恐れがあります。

㉔エアタッカの改造は厳禁。

⚠ 警 告

㉖安全装置（トリガロック）は絶対に改造したり、取り外したりしない。

㉗直射日光はさける。

エアタッカ、エアコンプレッサ、エアホースなどを、長時間直射日光のあたる場所に放置しないでください。

㉘水がかかったまま放置しない

雨等で水分がかかったまま放置しておくとサビの発生の原因となり安全装置が正しく動作しなくなる恐れがあり大変危険です。水がかかった場合は水分をよくふき取り油等を塗り、サビの防止をしてください。

㉙使用後の注意事項

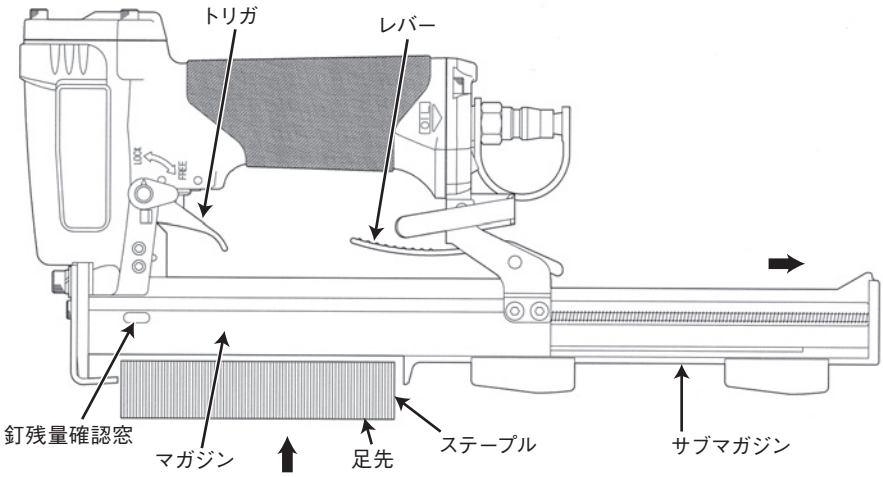
使用した後は、エアホースをはずし、ステープルを抜きとり、エアプラグからタービン油（JIS２種　ISOVG32）を２～３滴（0.1cc）注入してください。常温の乾燥した場所に保管してください。

9 使用方法

⚠警告	ステープル装填時は、必ずトリガロックをして、エアホースを外して下さい。

ステープルの装填方法

片手でエアタッカを持ち、もう一方の手でレバーを押しサブマガジンを後に引きます。エアタッカを横に向け、図のような方向にステープルをマガジンの中に入れて、サブマガジンを押し戻し、ロックします。マガジン内部のステープルの有無はマガジン横側の釘残量確認窓で確認出来ます。又、ステープル装填の時は絶対にトリガに指をかけないでください。



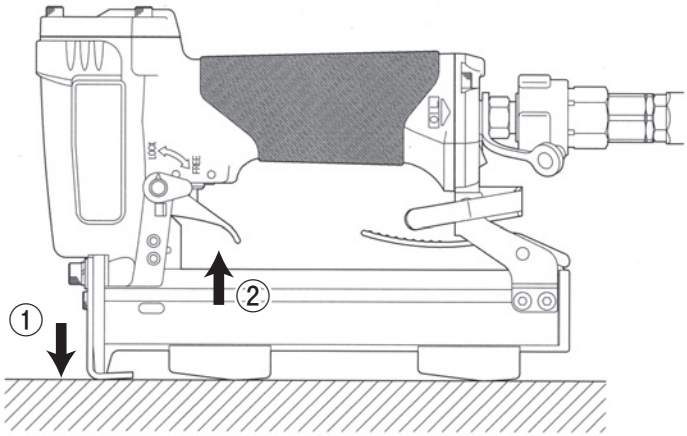
⚠ 注意

●マガジンを強く押し戻すとステープルが変形したりばらばらになり、ステープルの詰まりの原因となります。マガジンは静かに押し戻して下さい。

打込み方法

⚠警告	本機はトリガを引くだけでステープルが発射されます。ステープルを打込む時以外は、絶対にトリガに指をかけないで下さい。誤って発射した場合には思いがけない事故につながります。ステープルを打込む時は射出口を確実に対象物に当ててから、トリガを引いて下さい。

①ステープルを打込む場所に射出口を当てます。
②トリガを引きます。



空打防止機構について

本機には空打防止機構が装備されております。
マガジン内に釘が入っていない場合、および釘を全て打ち終えた場合、トリガが固定され動かなくなります。
続けてご使用する場合はステープルを装填して下さい。

⚠注意	マガジンを開くと空打ち防止機構が無効になります。空打ちを続けると本機の故障の原因となります。

10 使用後のメンテナンス

⚠警告	ステープルつまりの際は、必ずトリガロックをして、 エアホースを外してください。

ステープルつまりの取り方

ステープルつまりがおこったら必ずエアホースを外しトリガロックをしてください。次にマガジン内のステープルを取り除いて下さい。その後、つまったステープルを除去して下さい。

排気カバーの清掃

排気カバーにゴミ等が付着しやすいので、使用後はエアダスタ等で除去して下さい。

エアプラグキャップ

エアホースを取りはずした時には、エアプラグの根元に取付けられているエアプラグキャップをはめ込んで、砂やほこり、雨水等が釘打機の内部に入らないようにしてください。

使用後の清掃

使用した後は、エアホースをはずし、ステープルを抜きとり、エアタッカからタービン油（JIS２種 ISOVG32）を2～3滴（０.1cc）注入してください。常温の乾燥した場所に保管してください。

エアコンプレッサ等の水抜き

作業が終ったらエアコンプレッサの電源を切り、ドレンコックを開いて、タンク内の残圧によって溜った水を抜いてください。特に湿気の多い季節は想像以上に水が溜ります。作業後は毎日、水抜きを行ってください。
又、エアセットを使用している場合は、フィルタ下部のコックを開いて水抜きをしてください。

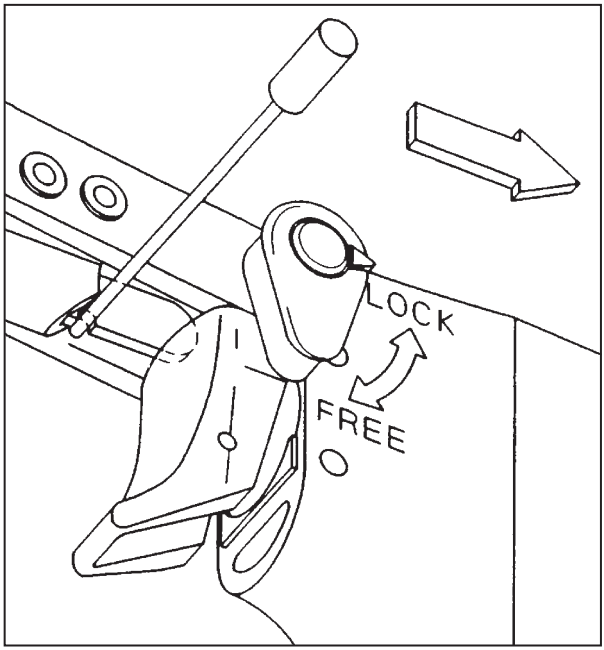
残りステープルの保管

残ったステープルはステープルケースに納め、安全で常温の乾燥した場所に保管し、ステープルケースの上に他の品物を乗せないようにしてください。

⚠警告	下記の作業をする際は、必ずトリガロックをして、 エアホースを外して下さい。

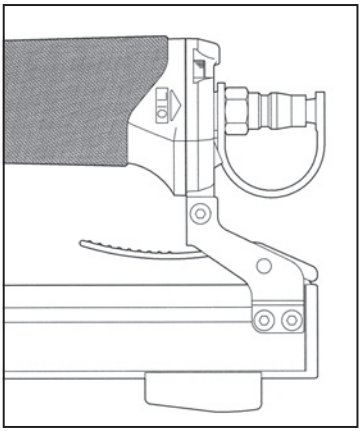
マガジンが開かなくなった場合

石膏ボード等のカスが付着して、空打防止機構の影響により、マガジンが開かなくなってしまった場合には、エアホースをはずし、トリガをロックして、板の切欠きに細い棒を差し込んで、矢印の方向に引き戻して下さい。また、マガジン周辺に付着しているカスをエアダスタ等で除去して下さい。

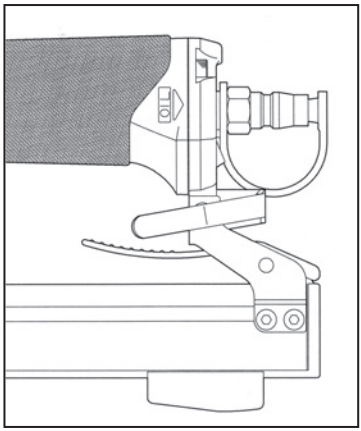


11 フックの取付け方法

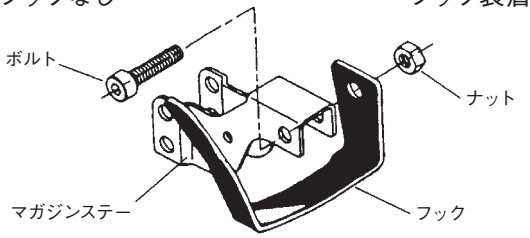
⚠警告	・フック装着する際は、必ずトリガロックをして、エアホースを外して下さい。 ・フックを腰のベルトなどをかけないでください。フックがはずれて本機が落下した場合、誤作動する恐れがあり、事故の原因になります。



フックなし



フック装着



フックは本機を一時的に引っかけておくのに便利です。付属品のフックを装着する場合は、エアホースを外しトリガロックをした状態で、上図のボルト及びナットをゆるめ、ナットのみを外して下さい。ボルトは抜き取らないで下さい。次に、フックをボルトに入れ、外したナットにて再度締め付けて下さい。その際、締め付けが弱いとフックがふらついたり、外れたりする場合があるのでしっかり締め付けて下さい。

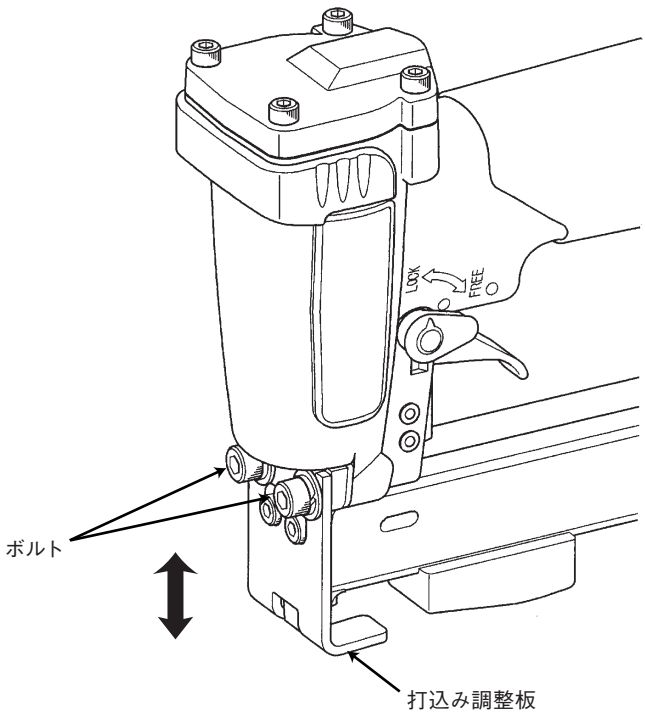
上記作業に於いて、指定以外のボルトやナットは本機の性能を損なう恐れがあるので、絶対に使用しないで下さい。

12 打込み深さ調整方法

⚠警告	打込み深さ調整の際は、必ずトリガロックをして、 エアホースを外して下さい。

本製品にはステープルの打込み深さを調整する機構を装備しております。
付属の六角棒レンチを使用して、打込み調整板のボルトを緩めることで、打込み調整板をスライドさせることができます。
適度な位置でボルトをしっかりと締め付けて下さい。

また打込み調整板を外して使用する場合、ボルトを外して、打込み調整板を取り外します。
ボルトをしっかりと締め付けてから作業を開始してください。

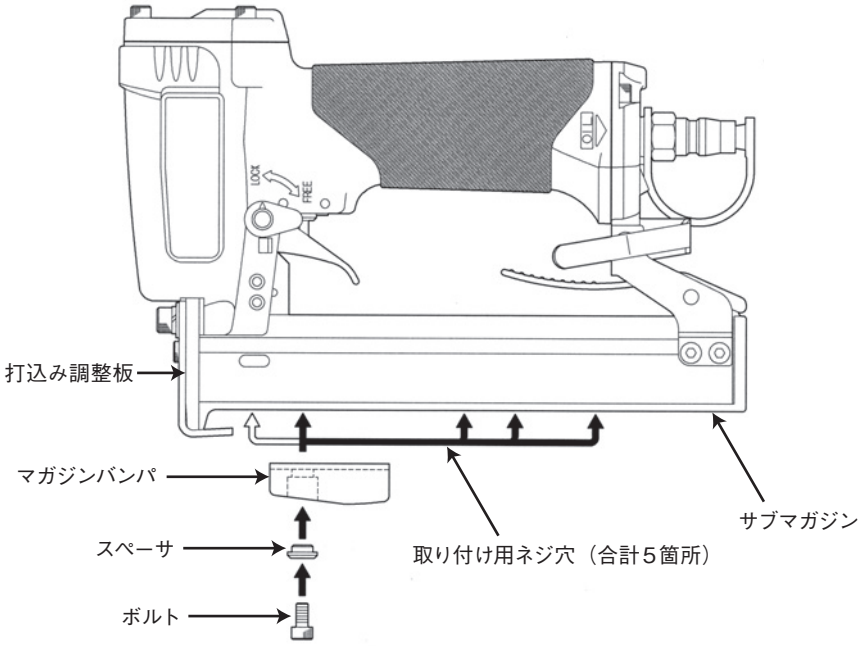


13 マガジンバンパの移動方法

⚠警告	マガジンバンパ移動の際は、必ずトリガロックをして、エアホースを外して下さい。

マガジンバンパはサブマガジンに2個装備されています。作業上、マガジンバンパの移動が必要な場合には、サブマガジンのネジ穴（4箇所※）を利用し、好みの位置に取付けて下さい。
※打込み調整板を取り外してご使用される場合は5箇所使用可能になります。

①トリガロックして、エアホースを外します。
②移動するマガジンバンパのボルトを付属の六角棒レンチで取り外します。
③マガジンバンパを移動して、元の通り（下図参照）に取り付けます。



メ　モ

メ　モ

全国に拡がるアフターサービス網

お買い上げ商品のご相談は、最寄りのマキタ登録販売店もしくは、下記の当社営業所へお気軽にお尋ねください。

事業所名	電話番号
札幌支店	〈011〉(783) 8141
札幌営業所	〈011〉(783) 8141
旭川営業所	〈0166〉(29) 0960
釧路営業所	〈0154〉(37) 4849
函館営業所	〈0138〉(49) 9273
苫小牧営業所	〈0144〉(68) 2100
帯広営業所	〈0155〉(36) 3833
北見営業所	〈0157〉(26) 9011
仙台支店	〈022〉(284) 3201
仙台営業所	〈022〉(284) 3201
古川営業所	〈0229〉(24) 0698
青森営業所	〈017〉(764) 4466
八戸営業所	〈0178〉(43) 3321
盛岡営業所	〈019〉(635) 6221
水沢営業所	〈0197〉(22) 5101
郡山営業所	〈024〉(932) 0218
いわき営業所	〈0246〉(23) 6061
福島営業所	〈0243〉(22) 1204
新潟支店	〈025〉(247) 5356
新潟営業所	〈025〉(247) 5356
長岡営業所	〈0258〉(30) 5530
山形営業所	〈023〉(643) 5225
酒田営業所	〈0234〉(26) 3551
秋田営業所	〈018〉(863) 5205
宇都宮支店	〈028〉(634) 5295
宇都宮営業所	〈028〉(634) 5295
小山営業所	〈0285〉(25) 5559
水戸営業所	〈029〉(248) 2033
土浦営業所	〈029〉(821) 6086
関東物流センター	〈048〉(771) 3451
埼玉支店	〈048〉(777) 4801
さいたま営業所	〈048〉(777) 4801
川越営業所	〈049〉(222) 2512
熊谷営業所	〈048〉(521) 4647
越谷営業所	〈048〉(976) 6155
前橋営業所	〈027〉(232) 5575
高崎営業所	〈027〉(365) 3688
両毛営業所	〈0276〉(46) 7661
千葉支店	〈043〉(231) 5521
千葉営業所	〈043〉(231) 5521
市川営業所	〈047〉(328) 1554
成田営業所	〈0476〉(73) 8101
木更津営業所	〈0438〉(23) 2908
柏営業所	〈04〉(7175) 0411

事業所名	電話番号
東京支店	〈03〉(3816) 1141
東京営業所	〈03〉(3816) 1141
中野営業所	〈03〉(3337) 8431
足立営業所	〈03〉(3899) 5855
大田営業所	〈03〉(3763) 7553
江戸川営業所	〈03〉(3653) 5171
多摩営業所	〈042〉(384) 8411
立川営業所	〈042〉(542) 1201
横浜支店	〈045〉(472) 4711
横浜営業所	〈045〉(472) 4711
川崎営業所	〈044〉(811) 6167
平塚営業所	〈0463〉(54) 3914
相模原営業所	〈042〉(757) 2501
湘南営業所	〈0466〉(87) 4001
静岡支店	〈054〉(281) 1555
静岡営業所	〈054〉(281) 1555
沼津営業所	〈055〉(923) 7811
浜松営業所	〈053〉(464) 3016
甲府営業所	〈055〉(276) 7212
金沢支店	〈076〉(249) 5701
金沢営業所	〈076〉(249) 5701
七尾営業所	〈0767〉(52) 3533
富山営業所	〈076〉(451) 6260
高岡営業所	〈0766〉(21) 3177
福井営業所	〈0776〉(35) 1911
岐阜支店	〈058〉(274) 1315
岐阜営業所	〈058〉(274) 1315
多治見営業所	〈0572〉(22) 4921
松本営業所	〈0263〉(85) 4751
長野営業所	〈026〉(225) 1022
上田営業所	〈0268〉(22) 6362
飯田営業所	〈0265〉(24) 1636
名古屋支店	〈052〉(419) 0561
名古屋営業所	〈052〉(419) 0561
一宮営業所	〈0586〉(75) 5382
東名古屋営業所	〈0561〉(73) 0072
知多営業所	〈0569〉(48) 8470
岡崎営業所	〈0564〉(22) 2443
豊橋営業所	〈0532〉(46) 9117
四日市営業所	〈059〉(351) 0727
津営業所	〈059〉(232) 2446
伊勢営業所	〈0596〉(36) 3210
京都支店	〈075〉(621) 1135
京都営業所	〈075〉(621) 1135
福知山営業所	〈0773〉(23) 7733
大津営業所	〈077〉(545) 5594
彦根営業所	〈0749〉(22) 6184

事業所名	電話番号
大阪支店	〈06〉(6351) 8771
大阪営業所	〈06〉(6351) 8771
東大阪営業所	〈06〉(6746) 7531
関西物流センター	〈0725〉(46) 6715
南大阪営業所	〈0725〉(46) 6611
奈良営業所	〈0742〉(61) 6484
橿原営業所	〈0744〉(22) 2061
和歌山営業所	〈073〉(471) 4585
田辺営業所	〈0739〉(25) 1027
沖縄営業所	〈098〉(874) 1222
兵庫支店	〈0794〉(82) 7411
三木営業所	〈0794〉(82) 7411
尼崎営業所	〈06〉(6437) 3660
神戸営業所	〈078〉(672) 6121
姫路営業所	〈079〉(281) 0204
広島支店	〈082〉(293) 2231
広島営業所	〈082〉(293) 2231
福山営業所	〈084〉(923) 0960
三原営業所	〈0848〉(64) 4850
岡山営業所	〈086〉(243) 4723
宇部営業所	〈0836〉(31) 4345
徳山営業所	〈0834〉(21) 5583
鳥取営業所	〈0857〉(28) 5761
松江営業所	〈0852〉(21) 0538
高松支店	〈087〉(867) 6411
高松営業所	〈087〉(867) 6411
徳島営業所	〈088〉(626) 0555
松山営業所	〈089〉(951) 7666
宇和島営業所	〈0895〉(22) 3785
高知営業所	〈088〉(884) 7811
福岡支店	〈092〉(411) 9201
福岡営業所	〈092〉(411) 9201
北九州営業所	〈093〉(551) 3481
飯塚営業所	〈0948〉(26) 3361
久留米営業所	〈0942〉(43) 2441
佐賀営業所	〈0952〉(30) 6603
長崎営業所	〈095〉(882) 6112
佐世保営業所	〈0956〉(33) 4991
熊本支店	〈096〉(389) 4300
熊本営業所	〈096〉(389) 4300
八代営業所	〈0965〉(43) 1000
大分営業所	〈097〉(567) 3320
宮崎営業所	〈0985〉(26) 1236
鹿児島営業所	〈099〉(267) 5234
沖縄営業所	大阪支店の欄をご覧ください。

882435-5

株式会社マキタ
愛知県安城市住吉町 3-11-8 〒446-8502
TEL.0566-98-1711 （代表）